

自己評価および外部評価結果(あんき)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員や誰からも見える所に掲示し声に出し繰り返し読み、いつも念頭に置いて日々のケアに取り組んでいる。又、家族や施設関係者とも、その都度説明しています。	入社前の面接の時や、新入社員研修で理念については話をしている。朝夕の申し送りの際にも理念を覚えているから、時々確認をしている。家族に対しても、入居の際に重要事項説明の中で理念について説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や防災訓練への参加、ふれあいの会などに積極的に出かけ意見の交換や会話を楽しています。畑の作物の交換、季節の花を頂いたり、地域の小学校の学芸会見学、子供会神輿の受入れ等、積極的に行っています	近所の方が季節の花を持参され、事業所で花を生けたり、犬の散歩の際に交流したりするなど、地域の方とは日常的な付き合いがある。また、町内の旅行に施設を代表して施設長が行ったり、地域の老人会の行事に協力したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での自治会や老人会に参加して現状や困っていること、これからの展望など常に話し合い、意見を交換して、より良い介護をするために、日々努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近の行事での皆の活動、表情、想いを紙面で報告し、今後の予定を明確に地域や家族の方にお知らせします。それについて感想や要望を取り入れ、より良い活動をする為、頑張っています。	民生委員、愛育委員、住民代表、老人会、消防団、家族など、多くの参加者により、2か月に1回会議を開催している。メンバーに変化があまりなく、報告が中心の会議となっている。	会議に変化や刺激を与えるきっかけとして、交流を続けている小学校などの関係者の参加や、地域の他の事業所の参加の要請など検討してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には現状をよく知ってもらい細かな事でも積極的に相談し協力をお願いしています。そのうえでより良い、ケアサービスの向上に努めています。	介護保険課は施設長が、福祉事務所は管理者が、なるべく電話ではなく窓口足を運び、わからないことは尋ねることで、馴染みの関係を築けるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の禁止対象となる行為を職員全員が理解しケアサービスに取り組んでいます。その人らしく自由に動かれるように、またリスクも十分に考え、見守りを徹底させています。	身体拘束に関するマニュアルや、同意書などは用意しているが、なるべく身体拘束を行わずにいいように検討をし、現在は身体拘束は行っていません。年に1~2回、内部での研修、外部研修に参加している。また、入居時を中心に、協力医と協議をしながら、眠剤や安定剤の減薬・断薬に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メンタルヘルス講習を年に数回開催し職員のストレスがたまらない様に努めています。又職員同士が啓発しあい、お互い注意を払いながら日々のケアに取り組んでいます。監視カメラも設置しています。問題行動監視を目的とした		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いて学ぶ機会を持っている。わからない事案があればすぐに聞いたり、調べたりする習慣が身についている。自分の判断で勝手に判断しない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族とは、密に連絡を取り合い、何でも相談出来る関係を築いている日頃から遠慮なく話せる、気さくな間柄を心掛けて本音が聞ける様に、そして早々に運営に活かしています。わかりやすく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会の折に、何でも話せる様な雰囲気を作り、声のトーンや表情を見ながら会話をしている。又、無記名のアンケートを実施して、本音が聞ける様に、そして早々に運営に活かしています。	事業所が独自に行っている家族アンケートから、接遇についての意見をいただき、改善に取り組んだことがある。利用者については、入浴の時などマンツーマンになる時を中心に話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	パソコンや携帯電話等の機器を使って思うことやつぶやきを拾う様に。又、聞く機会を設け、幅広く意見や提案を集め、運営に活かしている。	職員からは日常の業務の中で話を聞くようにしているが、言いにくいことなどは、施設長や管理者にメールや携帯電話等で直接話ができる環境も整備している。また、資格取得や、講座の情報を細めに提供し、休みの調整など、事業所側からも提案をしながら支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、しばしばお茶の輪に入ったり、そっと話し掛けたりしながら、職員の考えがきける様に努めている。また、労働状況や努力、実績についても観察や聞き取りをし、まんべんなく平等に職員がやりがいを持って働けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員の力量に合わせた研修や実践講習を受けさせている。それが、職員の気力向上になり、仕事の面白さや楽しさややりがいにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の自治会や集り、また研修会に参加することによって同業者と交流する機会も増えている。横のつながりが広がれば切磋琢磨しながらサービスの向上にも役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はケアサービスのメリハリをつけながら、常に入所者の立場になり、その人目線から見つめ声に耳を傾けながら、ケアに活かす努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では、お互いの連絡を密にし、必要な物品、本人が大切にしていた、馴染みの品や、その人なりの考え方を把握理解する。また本人、家族の要望を紙面に残し、要望に答え、不安解消へと努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何故この施設を選んできたか、何に困っているのか、どのような生活を送りたいか、また、送ってほしいかを明確にし、一つ一つの課題を挙げ固定観念にとらわれず、新しいケアの方法や、あり方を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本当の家族の様な笑顔で何でも語り合い、寝食を共にするような関係を目指し日々追求しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	恥ずかしがらず、何でも相談出来、実践にうつせる関係を築いています。職員間の情報も共有し、誰でも傍に寄り添い、同じ目線だその人らしく生活出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人の人生の在り方、暮らしが活かされる様な介護計画書の作成、日々の実践、これまでの生い立ちを把握し、いつでも記録が確認出来るように保管管理されています。	気になる人の名前が聞かれたら、便箋を渡して書いてもらうなど、電話や手紙を中心に関係を切らないように、積極的にアプローチをするようにしている。知り合いの方から電話があると、面会に来てもらえる様に話をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆっくりとくつろげるソファや、楽しく語り合えるテーブル席を用意し利用者同士が、気兼ねなく話し合える環境を。レクレーションやゲームも個人でするものではなく触れ合いや会話の多い物を取り入れ実践しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、地域の関係者にそれとなく尋ねて安否を気遣っている。手を離れたからといって関係が断ち切れたとは思えなく、出来るだけ情報提供や馴染みの関係継続してゆきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のこれまでの暮らし、趣味性格を把握し、その人らしい人生をまっとうされるように支援に努める、しぐさ、表情を観察し、タイミングを見て意見を聞く様にしています。	入所以前に家族から聞いている趣味嗜好に固定概念をもたず、日常のケアの中から気づいた事でカラオケが好きであったこと、言葉ではむつかしかった意思の疎通が、書をとおしてできる事を発見することがあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	心にある大切な人、思いで現在に至るまでの生活環境を念頭に、その人らしい人生を送れるように日々ケアサービスに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理、暮らし、しぐさ、機能、元気度等をチェック、把握、職員が共有し、その人らしい一日の暮らしの支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や地域等の方々が気軽に訪れられるよう施設を開放している。施設での行事の際は招待状を出したり話し合いにも応じ、さまざまな意見やアイデアを幅広く取り入れています。	月1で行われるケア会議だけでなく、普段のケア中にも職員どうして話し合い、申し送りで情報共有している。看取りの際は家族と医師を含めたカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や様子の記録はもちろん、日々の変化や問題点を細かく記入し、それを職員同士読み合い、工夫の仕方、ケアの方法、さずきなどアイデアを出しながら情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベテランから若手まで、幅広い職員を揃え、意見を出し合いながら、考える時間を設けて、日々変化する入居者の様子に最適なケアサービスを心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館で本を借りたり、音楽(オカリナ)、フラダンス、リズム体操、芝居、施設を訪れ手足を動かし歌い観賞して楽しく過ごしている。また、消防士さんによる、災害時の訓練も実践もし、備えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や急変の時、本人や家族と話し、理解を得ながら、これからの健康管理についての方針決めて、主治医を決定し、往診により受診し結果の報告も必ず行い記録にとどめています。	かかりつけ医は選択できるようにしているが、往診のこともあり、現在は全員が協力医をかかりつけ医としている。他科の受診についても、職員が同行するようにし、後で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今は週3回、普段でも週1回の訪問看護を受け、健康管理と一人一人の体調の変化や行動等を伝え、相談し、本人に直接話し、情報共有し主治医・訪問看護・介護職員の連携を密にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療に専念してもらえるよう、病院や医療機関と普段から信頼関係を構築し、情報共有して、何でも相談出来るように努めています。訪問看護と主治医と入院病院等の医療機関を同じ組織で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から体調について報告、相談し、今後の介護サービスや治療の方針を支援しています。本人や家族の気持ちを大切に寄り添う姿勢で対応しています。	看取りに関する覚え書き、指針を用意しており、入居時から看取りについて説明をし、変化があるごとに再度説明をしている。看取りを希望する家族がほとんどで、協力医の協力もあり、できる限り希望に沿えるようにしている。職員は外部の研修を受けており、実際に看取りを行う際には、協力医からもアドバイスを受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、いつでも対応できるよう、普段から職員同士声を掛け合いながら訓練をしています。応急手当の実践(救命救急)など、何を先にするかマニュアルの手順書の確認等も行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防避難訓練実践を生かし即対応出来るように心がけています。また、建物の構造や備品の場所、連絡の仕方など、常に念頭に置いています。	年に2回、昼夜想定での避難訓練を消防署の指導のもと行っている。災害に対する意識が高く、水害マップや、備蓄食料、停電を想定して発電機やソーラー発電なども備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格に尊厳を持ち常に低い姿勢から声を掛け、プライバシーを大切に意識しながら日々取り組んでいます。常に冷静に相手の表情を見、笑顔を絶やさぬ事に気をつけて対応しています。	トイレ、浴室、個室などは、他の方が見ないように気を付けている。また、声かけについては、「～して」などの言葉を使わないように指導しており、利用者の前を避けて職員同士でも注意をするようにしている。	言葉かけには気を付けているようだが、訪問調査の際にも、「～して」「～してあげる」などの言葉が聞かれました。接遇研修などを通じて、見直しや意識付けができる取組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手が遠慮したり、話したいことをとどまる様な、態度は絶対にとってはいけないことと十分理解し、何でも心おきなく話したり相談出来るような、間柄を保つよう努めています。また、また、選択できるようにわかりやすく話しかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に支障のない様に、本人の希望に沿った、行動、活動を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護職員で、時間を作り、髭そり、髪切り、爪切りを出来ない事への支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策等の諸事情の中で、食品衛生の認識の出来る人に限り、モヤシの根取り(下ごしらへ)等やテーブル拭きを手伝ってもらっています。	毎年園庭で実った梅を、利用者と収穫し漬けている。その梅は毎日の食卓にのぼり利用者の健康維持に一役かっている。気候が良い時は、園庭で食事をしたり、お弁当を買ってきて食べたりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立表に沿った調理と薄口な味付けで行い。油、塩分、砂糖、科学調味料を極力控えた味付けにしています。水分補給も十分に考えた、お茶の時間も有ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後介護職員が一人ずつ口腔ケア介助を行い出来ない事への支援と義歯の人のポリゼントによる消毒等の援助を行っています。医療連携歯科の往診も可能です。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人の排泄パターンをを把握し、時間が来れば、トイレの声掛けを行い、できるだけおしめの使用も控えるようにし、尿意の残存機能の存続を促すケアを促進しています。	排泄ケアの際は、パットの汚れの有無や、自尿の有無など細かいチェックを行うようにし、次からのトイレ誘導の参考にすることで、パットの使用量を減らし、トイレでの排泄ができるように繋がっている。入所時は寝たきりだった方も、トイレで排泄ができるようになったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様全員に10時と3時に運動、ラジオ体操と散歩をしていただき、牛乳とお茶を飲んでいただき、カルシウム補給と水分補給をまた便秘解消を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者様に、入浴の声掛けをしますが、断れば他の人に代わり、後程再度声掛けし、だめなら、翌日に回し入浴の声掛けをし、清潔で健康的な生活をしていただくように配慮しています。	入浴回数や時間は決めておらず、毎日入浴される方もおられる。入浴の時間は、会話や歌を楽しむ場となっている。入浴が難しい時は、お茶を入れた手・足浴をしたり、おしめ使用者は入浴しない日はお茶で陰部洗浄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則日中は、日常生活を普段着で行い、体調の悪い人や感染症の人は自室で過ごしていただき、臨機応変に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅支援で薬の配達と副作用の確認を行っています。薬剤師より介護職員に薬の勉強会を開催し知識の習得の説明会を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る仕事の役割分担や楽しくやれる仕事の分担等を把握し、声掛けし、手伝っていただくようにし、やりがい、生きがいを見つけていただくように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の恐れの間中は、人込みを避けて外出し、病院医療機関受診も出来るだけ避けて行い、真夏日、真冬日の外出もできるだけ控えています。それ以外の時に、外出するように努めています。	園庭やベランダで外気浴、体操、食事、散歩などは日常的に行っている。また、病院受診やドライブへ出かけた際に、買い物に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にお金を持つて買い物をしていただきますが、半数以上の人は、興味がなく迷惑にさえ思う人も沢山居られました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作り、その人が出来る、書ける能力に応じた年賀状を家族に送る。電話は、家族の了承のある方のみ電話の支援をし、そこまではかかわりたくない家族も居られ選別して支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さは、広々と車いすでも、気兼ねなく暮らせ、室温は、夏は27℃冬は20℃を目安に冷暖房し、ききすぎに注意しています。照明は、夜もLED照明でそのまま活動できる明るさで、花壇や庭や畑で十分に季節感を満喫いただいています。	骨とう品が多く飾られ、昔を思い出すきっかけとなっていたり、近所の方から頂いた花を飾り季節感を感じられたりする。建物が大きく広いため、室温コントロールが難しく、じっとしていると寒さを感じることもある。また、少し灯りが暗く感じる。	建物が大きく広い為、全体的に施設内の照明が暗く感じました。照明の照度を部分的にでも上げて明るくすることで、落ち着きの中にも明るさがあるのでないでしょうか。また、室温が低いように感じました。温度だけにこだわらず、利用者の体感にも気を配った温度管理に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間は、いつも共同生活で迷惑行為がなければ、自由に過ごしていただいても構いませんが、危険が予測される場合は注意します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にその後も、馴染、思い出の品等の持ち込みを依頼していますが、アルバム等も破いたり捨てたりする方も居られ、価値観の違いがあるのではないのでしょうか？	持参物に特に制限は設けておらず、馴染みのものを持って来ていただくように家族には説明しているが、馴染みの物を持って来ることが少なくなってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護職員全員、利用者一人一人の能力やできること、できないことを把握しており、出来ない事への支援を行う事を目的とした支援を心がけています。		